

秋田・猿倉温泉郷、リゾートホテル『フォレスト夕鳥海』
お客様からのご支持をバツクに、安定業績を期す

株式会社フォレスト夕鳥海（代表取締役社長） 佐藤安隆



名峰・鳥海山の麓に広がるブナ原生林に抱かれ

温泉も湧き出る本格リゾートホテル『フォレストタ鳥海』

立地環境の魅力と設備・サービスの充実に、支持が集まる

『フォレストタ鳥海』、
地域の期待を担ってスタート

ホテル『フォレストタ鳥海』は、地域振興・観光振興を目的に平成8年、秋田県によって県内4カ所に開設された宿泊施設の一つです。

県はホテルオーナー的な立場に徹し、実際の管理運営に関しては立地する自治体、すなわち当時の鳥海町（平成17年の市町村合併により、由利本荘市へ併合）の主導によって立ち上げられた第三セクター「フォレストタ鳥海」が担っていくことに。そこには地元企業も何社が出資しており、私の父・佐藤安夫を創業社長とする建設業「佐藤建設」もそのうちの一家でした。こつとした縁もあって、安夫は取締役担当出され、本業との兼務に取り組んでいくことになりました。仕方なく引き受けたのではなく、地

域振興の期待を浴びる施設の管理運営に関与していける仕事に対し、あの種の喜びと誇りを感じ取ったのではないのでしょうか。

支配人をはじめスタッフにも優秀な人材を確保でき、準備万端。こうしてホテル『フォレストタ鳥海』がいよいよ、そのスタートを切ったのです。

第三セクターとして、 一定の業績をあげる

家業である佐藤建設の専務取締役として一生懸命、経営に向き合っていた私にとって、父・安夫が携わるホテル『フォレストタ鳥海』の仕事に対しては、関心を寄せるだけの余裕がありませんでした。ところが安夫の他界を受け、佐藤建設代表取締役社長長の役割を任せられるようになる。同時に、「フォレストタ鳥海」の取締役の役割も回ってきます。やってみるしか

ないと、覚悟を決めます。平成22年の出来事でした。

新米取締役として、まずは業績動向に目を向けてみました。黒字の年度、赤字の年度を繰り返しながら、また市側からの補助金にも一定程度、頼りながら、何とか存続してきた状況を知ることになります。それでも数多の第三セクターがかなりの赤字を続けている現実には照らせば、健闘の部類に括つてもよさそうに思えました。現場スタッフたちの不断の努力、工夫のお陰なのでしょう、きっと。次にスタッフたちの意見や、お客様からの声を通じて、『フォレストタ鳥海』のここが魅力というポイントを探り出してみることができました。

まずは、周辺自然環境の魅力についてです。

◆東北を代表する名峰、鳥海山への山登り



◆山麓に広がるブナの原生林をぬぐように、トレッキング

◆途上に点在するビューポイントでひと息入れつつ、写真撮影やスケッチ
◆加えてバードウォッチングや植物散策、星空観察も

——高原のリゾートルाइフを四季折々、自分たちなりのスタイルで満喫したいという願いに、ここなら応えてくれる。それが訪問動機、利用動機につながっているのです。続いて、ホテル自体の施設設備面やサービス面、いわゆるハード&ソフト面に関してはどうでしょう。

◆ワンランク広めの客室でゆったりとくつろぎ、窓いっぱい広がる鳥海山の雄大なシルエットを愛でる

◆ブナの森からこんこんと湧き出る源泉をひいた大浴場で、じんわりと温まりながら、心も体も癒す。また連泊なら、澄み切った空気にふれつつ、鳥海山を眺めながら露天風呂に浸かる、という楽しみ方も

◆さらに食事は、ブナ林に囲まれたオープンエア感覚の広々としたレストランで、鳥海山麓とその周辺の山海の幸を採り入れ、調理された馳走の数々を堪能する

—そんな贅沢なりゾートホテルライフを満喫できるのも大きな魅力と、ご指摘いただいています。

いずれにも納得。ホテル『フォレスト鳥海』らしさを際立たせるポイントであり、今後の管理運営におい



ても大切にしていかなければならないし、お客様へも発信し続けていかなければならない。スタッフたちと認識を共有しつつ、取り組みを進めていきたいと思い、実行に移してきました。

コロナ禍に向き合い、 新機軸を打ち出す

取締役になってから8〜9年後、総務大臣通知「第三セクター等の経営健全化等に関する指針」を受け、「フォレスト鳥海」においても経営体制刷新についての議論がなされます。代々、副市長によって受け継がれてきた代表取締役の座を民間へ移す決定がなされ、私に指名がかかります。最初、お断りするつもりだったので、市長からの叱咤激励もあって、考え直すことに。私自身の内にも、「ゼロから立ち上げに関わってこられた先人たちの強い思い、大きな希望を受け止めないでどうする」という気持ち湧き上がってきて、お受けすることに。大役、しかも無報酬での役回りを平成30年より、こなしていくこととなりました。

黒字常態化に持つていける自信もないし、市側からの補助金に頼り切



らない体質に改める約束もできない。ただし、ホテルならびに法人の維持・継続のためにやれることは、やる。無報酬を言い訳に手を抜いたりすることなど、決してしない。そんな決意をスタッフたちの前で披歴したのが、まるで昨日のことのように思い起こされます。

ほどなく新型コロナウイルスのまん延に伴って緊急事態宣言が発出され、私どもにも深刻な影響が。ところが、ピンチのあとにはチャンスあり。行動制限が緩められ、『GOTOトラベル』キャンペーンが開始されると、集客環境もプラス方向へ一転します。私どもの側からも、新設コテージをダイニング代わりにしたBBQフルセットサービスの提供、館内WiFi環境、ワーケーションブースやキッズルームなどの整備を通じた、リモートワークのサポート……などの施策を打ち出し、潜在需要の掘り起こし、取り込みに努めてきました。

黒字常態化へ 近づいていくために

「コロナ禍収束傾向が顕著となり、『GOTOトラベル』の縮小・廃止傾向が打ち出されるとともに、集客環

境は再び、厳しさを増していきます。負けるわけにはいかないと、次なる集客施策の企画・実行に努めてきました。

たとえば、館内宴会場を会場にしたおもてなしイベントの開催があります。地元の複数の酒蔵とのコラボレーションによる『清酒祭り』『いわいさけ』には、とりわけ力を入れてきました。宿泊客の皆さまはもとより、地元住民の皆さまからもお楽しみいただいています。また民謡や歌謡、フラダンスまでも組み合わせた豪華ショーにも、多くの皆さまにお越しいただいています。従来、会議やカルチャー教室、展示会などを中心にご利用いただいていた宴会場の、稼働



率アップにもつながっています。交通アクセス上の問題により、客室稼働率が落ちてしまいがちな冬場における集客作戦として、かねてより、近くに位置する矢島スキー場とのコラボレーションによる割引セットプランを用意するなど、対応に努めてきました。しかしながらスキー人口そのものの減少もあり、今後、人気が高まっていきそうなアクティビティとコラボレーションを組んでいくなど、新しい試みに挑戦していく必要性も感じています。

ホテル『フォレストタ鳥海』のオープンから四半世紀以上が経ち、施設設備のメンテナンス&リフレッシュという課題にも、真剣に向き合わなければならぬ時期を迎えています。前述した館内WiFi環境の整備に続いて、館内照明LED化など対応を進めています。

今後、現実化してくる諸対応については、施設オーナーである県側との協議が前提となります。私ども「フォレストタ鳥海」側の負担が生じてくることも当然、考慮しておかなければなりません。そのためにも業績の黒字常態化へ、できるだけ早く近づけていきたいと思っています。

率アップにもつながっています。交通アクセス上の問題により、客室稼働率が落ちてしまいがちな冬場における集客作戦として、かねてより、近くに位置する矢島スキー場とのコラボレーションによる割引セットプランを用意するなど、対応に努めてきました。しかしながらスキー人口そのものの減少もあり、今後、人気が高まっていきそうなアクティビティとコラボレーションを組んでいくなど、新しい試みに挑戦していく必要性も感じています。



佐藤安隆 さとう やすたか

昭和27年、秋田県由利郡鳥海町(現・由利本荘市鳥海町)に生まれる。同51年、秋田経済大学(現・ノースアジア大学)卒業と同時に家業の佐藤建設㈱に入社。多くの現場経験を積んだ後、専務取締役として経営に参加。平成22年、先代の死去に伴い代表取締役社長就任。先代が務めてきた㈱フォレストタ鳥海の取締役の座にも就く。同30年より、同社代表取締役社長。他に、由利高原鉄道㈱取締役(非常勤)なども務める

代表者 代表取締役社長 佐藤 安隆
 設立 平成20年
 事業内容 ホテル「フォレストタ鳥海」の管理運営
 所在地 〒015-0512
 秋田県由利本荘市鳥海町
 猿倉字奥山前8-45
 電話 0184-58-2888
 URL <https://foresta-chokai.com>
 資本金 5000万円
 売上高 2億3985万円
 従業員数 28名